

新潟県 公民館月報

昭和55年12月号

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・興林会館内】

【電話・新潟(0252)24-6073】【振替新潟4094】

発行人 会長 石井 耕一

編集人 事務局長 本田 清

【定価1部 70円 年共 年価 840円】



葛塚市

「こい買うていきなせや。」
「潟の鯉だかね。」
「潟なんて、米も作らんね田んぼになつてもうたがね。これ、村松から来るがんだれ。」

葛塚市は、一日・五日・十日と五日ごとに開かれる。歴史は古いのだが、生活様式の変つた今でもやはり繁昌している。近郷から買物に出てくる主婦たちの社交の場にもなるので、その日が待たれているようである。

その一角には、川魚を商う元氣ない小母さんたちが陣どつている。土地の人は、「潟端シヨ(かたばた衆)」と呼んでいる。福島潟で漁をしていた家のオカミサンたちである。

しばし、福島潟の話でねばりながらスケッチをとる。

干拓前の潟は、漁業のほか、近在の人達の格好なレジャーの場でもあった。ヨンヤガツボの茂る迷路さながらの水路をたどると広々とした湖面に出る。ドンバス(鬼蓮)のとげに驚いたり、ヒシとりをやったことなどみんな楽しい思い出となった。

絵・文 渡辺 郁
(豊栄市連合婦人会長)

ついでにの討議

むしろ現実の中へ入ってこそ実践活動ができ、学ぶことができる。

- 家柄、財産、職業で評価することなく、みえや外見にとらわれず、人間として評価してやるのが本当の同和教育である。
- 諸団体との連携のなかで実践していく。
差別を無くするには、同情でなく我が身の事として受け止め、団体間の調整を図るべきである。
- 自他共に生命を基本とし、働くことの大切さ、尊さを新めて認識し合うことである。
- 同和地区、地区外を問わず、家柄にとられない結婚ができる教育、これが民館の使命でなかりうか。

記録 味方村公民館 小松 氏盛

〃 中之口村公民館 大橋 宏一郎

第12分科会「高齢者学級等各学級・講座の実践と展開について研究する」

司会者 甲府市中央公民館長 長田 興吉
助言者 甲府市社会教育センター所長

植松 光宏

基調発表 八田村中央公民館社教主事 大野 昌樹
第12分科会では、山梨県八田村公民館社会教育主事、大野昌樹さんの基調発表を通し、各種学校講座の実践と展開について熱心な討論がかわされました。

1. 発表の中から

「農業に従事している者とサラリーマン、新しく入って来た住民と今までの住民とのふれあいを深めて、村民一丸となって、新しい村づくり運動を進めて行こう。」として、毎月第3日曜日に、朝から晩まで、老若男女全てを対象に実施しているのが「公民館デー」である。

少年・青年・成人・婦人・高齢者学級等、幅広い学習活動がなされている。今や住民にも定着し、始めた頃とは比べものにならないものとなった。

しかし、その背後には、

- ①地域の特性を把握しておくこと。
- ②住民が何を学びたいと考えているのか

あらゆる方法で、把握しておくこと。

- ③この学習の目的はこれだ、と言った目的をつかんでおくこと。

- ④常に参加者の意見を聞き、マンネリ化を防ぐこと。と言った事務局側の努力と配慮が必要となる。

また学習を展開するにあたっては、いくつか、苦心している点もある。

①各種学級講座の中には、地元講師がいないので東京から呼んで来る時がある。そうなれば当然安いお金では呼べない。

②PRの方法は新聞折り込みである。しかも、他のチラシがあまりない日に配布する。それだけでなく、あえて、きたない紙(黒のこうはん紙)を使って、手作りのものである。住民には、きたないチラシがくる

第12回関公連大会 分科会の記録から

と、「公民館からだナ〜」と言った印象が今や定着している。

③乳幼児教育を行う時には、参加者が熱心に学習できるように、子供を連れてきた時には、保育園の保育さんが、子供の世話をしている。

④高齢者学級の場合、年齢の違いや学歴の違いによって、難しいことでも、簡単なことでも受け入れられないと言った、学習内容をどのようにするか苦労している。

などと言った点である。

しかし、このように苦労したかいあって、「公民館デー」の効果として次のものがある。

①行政主導型から住民主導型の体制が作られた。

(例)一度崩壊した青年団が、仲間を集めていって、一年後に再編成された。必要ならば自然に集まるのである。

②住民主体の魅力ある学級(住民の要望の取り入れられた学級)が作られたので、住民が集まってくるようになった。

③結果として、住民のふれあひも、深まってきた。

と言った効果が出てきた。

住民に、「とにかく行ってみようと言う、意欲を出させるような、魅力あるもの」こんな内容であれば、今まで、集まることに苦労していたが、自然に集まってくるのである。

しかし、それには、公民館職員自身学習しなくてはならない。よその公民館で成功したから、ここでもと言うわけにはいかないのである。地域の特性があり、条件も違うのである。職員自身学習しなければならないのである。

2. 参加者等の意見の中から

大野さんがいなくなったら、「公民館デー」はどうなるのであろうかと言った質問がなされ討論された。結論は出なかった。

新潟市 高齢者の役割について

高齢化社会に入っている今日、公民館の高齢者学級では、教養講座の他、さまざまなクラブ活動が行なわれている。その中に、戦管体験談を文集にしているグループや、今静かなブームを呼んでいる昔のおもちゃ作りを子供たちに教えているグループがある。高齢者にとっては生きがいとなり、子供たちにとっては、自らの手でおもちゃを作る喜びと、それで遊ぶ楽しさを得られる。これは、高齢者にしかできない大切な役割である。

3. その他

栃木 公民館職員は、魅力ある学級講座を開き、住民が集まってくるような、創意工夫を常に求めなければならない。職員自身学習しなければならない。それゆえ、一般の市町村職員との身分の違いや待遇をよくしてはしい。

と言った要望も出された。

記録 村上市公民館 田島 雄洋

〃 荒川町公民館 米山 聡

前号に続いて第21回関東甲信越静公民館大会の第11分科会から第15分科会までの集約記録を掲載する。

第11分科会「同和教育・人権擁護運動等の推進策について望ましいあり方を研究する」

司会者 上田市城南公民館長 宮原 宏
 助言者 上田市中央公民館長 三井 宣蔵
 基調発表 長野県白田町公民館長 三石 晴夫

1. 基調発表

同和問題は、人間の自由と平等に関する問題であり、旧態依然として根強く残っている。現代社会においても、なお身分的差別を受けるなど著しく基本的人権を侵害され、重大な社会問題になっている。これらの問題は、住民一人ひとりが自分のこととして、科学的に理解しなければならないと思う。

◎重点目標として、

イ 意識の転換を図る。ロ 資質の向上を図る。

ハ 進んで運動に参加する。ニ 世論づくり

この4つの柱を目標とし、均衡のとれた教育を具体的に促進する。また、他人事としないで自らの問題として理解しなければならない。

◎同和教育を進める三つの柱として、

イ 部落の実態を把握する。ロ 部落差別の現実を知る。ハ 開放運動の歴史を学ぶ。

この3つを柱として、まず同和地区の人たちを、土俵の下から土俵の上にあげてやる。これが同対法でいう一番の仕事であり、同和地区の自覚で四つ相撲をとれる努力こそ、本当の開放運動となる。

◎全家庭に指導者を

会議をやっても出席しない。資料を流しても読まない。これらの無関心な住民に部落差別の問題は、住民の日常生活のなかで起きることが多いので、現存する差別の実態をなくす意欲と実践力を持つに指導者を全家庭に育てることが急務である。

アンケート結果から、差別解消への理解が進んだし、日常生活のなかでも目立つことが少なくなった。しかし、決して解消したとはいえない。

1. 結婚問題がいちばんの壁になっている。
2. 木音が出るのが、日常生活のなかでの茶のみ話しから出る。

この二つの現実から、差別解消の問題は、理解されてきているとはいえ、解消されたとは決していえない。

◎ これまでの取組み

同和教育は、抽象的な一般論議の繰返しが多く、住民の日常生活のなかに解け込む具体的活動が少なかった。

町民集會や部落懇談会に出席する人は、それなりの考え方を持っているのだから、同和教育の実践を通しての自覚が深まっている。

1. 高令者、婦人、青年、家庭等の学級の学習内容に必ず組み入れる。
2. 趣味のグループも含めた集団を対象に10分間講座の開放
3. 年2回巡回同和教育懇談会の開催。
4. 同和教育分館の指定。

事業・活動に

5. 同和教育指導者講座の入門。
6. 専門コースを設け、町内外の研修会巡回同和等に出席する。
7. 公民館報にシリーズとして毎月掲載する。
8. 同和教育資料を町内の人の集まる施設等に備える。
9. 公民館図書室に、同和教育専用コーナーを設ける。

◎ 差別解消への理解が進む。

巡回同和教育アンケート結果から、同和教育に関心があったと答えた人が47.4%近く、懇談会についての感想では、有意義だったと答えた人が83.5%、同和問題の理解度について、理解できたと思ったと答えた人が79%に達している。しかし、現実に戻った時は、他人や世の中の風潮に流されがちと、ここでも指摘している。

2. 討議内容(事例と同和对策の具体案)

- 公教育のなかで、同和地区、地区外を含めたところの同和教育を検討する。
 - 心のふれ合い、これを第1条件としなければならない。その心のふれ合い場づくりをすべきであり、心の扉は急に開かれるものではなく、一人ひとりの認識が活動の手始めと考える。
 - 寝たる子を起してからの対策であるから、起す前に事前に人権尊重を教育すべきだったと思う。
同和地区だけでなく、一般の人間関係において差別的偏見をなくし、人間平等の立場で物事にあたる教育こそ、その根源である。
 - 社会的に、経済的、文化的にも同和地区の生活水準の向上を図ることにある。
市町村は、以上のことを力点としなければならない。また、公民館活動の中では、地区住民の自覚を促すと共に、一般住民の意識の向上と、心のふれ合いの場を作る。
 - 学校教育、社会教育を通じて、同和教育の徹底を図る。学校では、差別や偏見、人間尊重の教育、社会教育では、差別解消の方法の一つとして、スポーツを通じ、人間同志のふれ合いの場を作ってやることが特策である。
 - 公民館は、地区内にある小さな問題も含めてあらゆる機関と連携をとり、対策を講ずるべきである。
 - 同和問題に関して、深い認識と理解をもった指導者を養成する。
 - 公民館は、問題解決の場として、あらゆる集會や行事に、また、基本的姿勢のなかでも人間尊重を重点にした教育の場づくりをしなければならない。
- ### 3. まとめ(助言者)
- 同和教育は、特別な教育ではなく、人間づくりのための教育でなければならない。
 - 家庭の中で中心となる指導者を養成し、仲間とし、誰れもが腹を割って話し合い、認め合うことができる場を作ってやるのが先決である。
 - 同和教育は、学校教育を避けてはならないし、みにくい心や、擠みづらいところを直すことが、各教育界に共通しての同和教育といえる。
 - ねた子を起す。公民館では、ねた子を正して起す場所でなければならない。

ついでにの討議

第14分科会「ふるさと運動・ 年中行事等を含む郷土の芸術 文化振興の方策を研究する」

司会者 小千谷市公民館長 五十嵐秀太郎
 助言者 上越教育事務所社会教育課長 栗岡 正彦
 基調発表 大島村社会教育主事 本山 信治

「手さぐりが現状のおらが村」
 (7年ぶりに復活した村文化祭に思う)

- (1)大島村の概要説明
- (2)文化祭復活のきっかけ……公民館を理解させる広報活動から出発
- (3)「青年パイオニア会議」の紹介……仲間づくりと地域に結びついた活動づくりに重点を置き新しい感覚で事業に対処
- (4)2日間の文化祭レポート、当日の催物及び参加人員等について
- (5)今後の課題として、指導者と場の確保併せて住民のゆとりが芸術文化の基本であるならば、そのいずれも大島村には欠けている。

これからは心身のゆとりの確保と併せて公民館はその中核とならなければならない。

質 疑

問 「青年パイオニア会議」を結成しなければならなかったか。

答 現在の青年数250人位、内青年団員は130人位で、団活動に参加しているのは半数位であり、組織があつてないような現状であり、青年問題に青年自身で正面から取り組み、その問題解決を少しでも図ろうというもので、仲間づくりと地域に結びついた活動づくりに重点を置き、7名の委員により進めてきた。また未加入の団員をどうしたら引き出せるかも考慮した。

問 7年ぶりに復活した文化祭について

答 資料P55を参照

問 7年前までの文化祭は小・中学校の文化祭との関係について

答 前は学校の文化祭に便乗し、町のしくみ等を展示したが、現在は学校との関連はない。

○各市町村の特色ある文化行事について

湯東村 松寿大学、明治大正大学、婦人会、青年団、子供会等の参加のもとに1ヶ月にわたり文化祭を開催。

加茂市 文化サークルにまとも文化協会を結成し、団体が一体となって活動している。公民館に場の提供と設営を受け持ち、団体のリーダーと連携を密に活動を行なっている。

小金井市 全国から寄り集まった住民が大半であるからふるさとの伝統芸能の堀り起しと伝承につとめながら住民相互の連携を深めている。

富士市 灯ろう流しのコンクールを通して、灯ろう流しを復活させた。

ま と め

1. 公民館で行う文化活動と分野について

・公民館の考える文化活動のすがたは、場の提供と援助が第一条件とされる。

・主な活動としては伝承文化の発掘、市町村民の文化活動に対する援助と素朴な文化活動に着眼を置く。

・新しい文化を発掘することだけでは意味がない。

・伝統芸能の堀り起こしと市町村の輪に文化の輪を広げることが必要である。

2. 文化活動に対する公民館の役割はどうか

・行政ベースで独走してはいけない。行政は文化団体の事を充分考慮し、活動しやすい場を作ることが望ましい。

3. 地名について

・今各地で地名の変更をしている所があるが地名はその土地土地の歴史を物語るものであるから安易に変更することはさけるべきである。

・地名の持つ意味は深く秘め、興味を持つことが大切である。

記録 山北町公民館 加藤 広輪
 関川村公民館 伊藤 泰雄

資料 歓迎

公民館で作成した資料や文芸作品または新聞などを「思惑」なきいせんか。県内の皆さんへも紹介してまいりたいと思ひます。

投稿 歓迎

長文でも短文でも結構折にふれて気軽にペンを走らせてください。採用文には粗字を上げておきます。

—編集部—

石井新一メモ

中国歌紀行(4)

洛陽(五月二十二日~二十四日)

仲麻呂がふりさげ見たるその月も同じ月なり夜洛陽に着く

古都のあと見渡す限り麦島白馬寺齋雲塔残るのみにて

唐代の百五十万都市解散前九万の都市いままた七十方

牡丹散り芍薬も過ぎただ青葉四十八ヘクターの王城公園

NHKのシルクロードに似たるなり仏像九万 体龍門石窟

公園の朝の散歩に人ばかりおさげの少女剣舞の練習

ホテルにて日本製品発見す日立東芝三菱クーラー

街頭所見 土地国有用地買収の必要なしうらやましきかな首長われらに

一 幹線の街路市員百メートル中の通路は三分の一

歩行者と自動車優先この国を見ならう要あり省エネ日本

消防車ついに見かけず燃ゆるなき土と煉瓦の中国の都市

(本会会長・豊栄市長)

歳末特別運動実施中 「新時代本気で省エネ根気で貯蓄」 新潟県貯蓄推進委員会

第13分科会「社会教育関係団体・グループ・サークル等の育成の方策を研究する」

司会者 上越市公民館長補佐 飯塚 正之
助言者 中越教育事務所社教課長 井上 暁
基調発表 新井市公民館主事 滝沢 進

「公民館活動における団体育成のあり方」

- (1) 行政主導型いわゆる公民館等が企画立案し、住民の参加を求めている現状から、住民主体型自主的活動に移行の必要がある。
- (2) 時代の変わりとともに衰退状態にある青年会活動の立直しと、住民主体の公民館活動のテストケースとして、「青年仲間づくり推進事業」を青年の手にゆだね開始した。
- (3) 仲間づくり運動の必要性を呼びかけ歩き、各青年会の共通する悩み「会員の減少」「会の目的のあいまいさ」等を肌で知り、「皆んなで考えた方がより良い解決策が見つかる」という結論に確信を得た。
- (4) この結論の基に一人一人仲間を増し「青年仲間づくり推進委員会」を結成し、社会教育登録団体として登録、活躍を開始した。
- (5) 運動方針は、次の4点をかかげた。
①お互いよく知り合う。②研修の場を通じて自己啓発する。③郷土意識を高める。④総合的に社会参加を考え実践する。
- (6) 「リーダー研修会」以来、「仲間づくり音楽祭」「明日の青年を語ろう討論会」等多彩な実績を上げるに至り、さらに新井市の青年活動の一大イベントとして「青年大会」を公民館と青年と一体になって成功させようと計画中である。
- (7) 成果としては、①この運動がより多くの青年に知ってもらいたいこと、②青年自らの手で企画実行することで仲間意識の高揚がリーダーの養成にもつながった。③市の広報紙の1ページを提供受け、毎月青年自らの手による広報活動を展開、仲間づくり運動を市民レベルまで拡大できたことなどが上げられる。
- (8) 以上のことから、団体育成に必要なこととして、青年の自主性を尊重し、事業の企画立案についても必要最少限の助言に止める。

青年とともに悩み行動する基本姿勢、仲間意識の高揚、リーダー発掘等一定期間内に組織化できるよう見守り、相互の信頼感を深めていくこと等が考えられると思う。

討 議 内 容

司会 社会教育団体にはいろいろな型の団体があり、その育成に努力しているところであるが、社会教育団体と公民館はどう関係していったら良いか。

東京 青年が何を求めているか、どのような団体にするか、団体としていかに掌握するか、青年のとらえ方として年令形態等どうとらえるか。

社会教育団体の登録扱いに問題はないか、市の広報利用に問題はないか。職員体制、物的な面、財政的な面の対応は？

発表者 社会教育団体登録、人員30名以上で社会教育活動している団体、優遇処置は公民館使用料80%減免、名簿、事業計画、予算、役員名簿提出、青年対象は学校卒から自称青年まで制限なし。広報は広報担当係に認めてもらって、青年の原稿には一切手を加えず掲載する。この事業は3ヶ年の補助事業で始めたが、補助事業終了時から市で10万円補助している。職員は1人

事業・活動に

で担当。

神奈川 当市某地区(大きな工業があり青年も多い)でアンケート調査の結果地域公民館感情が薄い、社交ダンス、山歩き等にはかなりの参加がある。地域活動より趣味的活動に関心を寄せている。

都市と農村の活動は違った形で文化団体の育成やサークル、友の会等の結成を公民館で音頭をとり世話役等を果し育成する必要があるのではないかと。

新潟 一般的に女性の参加が少ない。婦人会の組織はあるか。

発表者 婦人会の組織はあるが、参加が少ない。

静岡 婦人会は行政の下請的存在、高年令化、奉仕団体のイメージあり、若い人には関心が持たれない。役員をやれば会をぬかるという考えであり、自分の会である意識がない。名だけの会という感が強い。

これからは自分たちの会として、趣味、サークル活動等多く取上げ、その上で地域づくり、町づくりの活動、奉仕的意識の見直しを考えて行く必要がある。

新潟 婦人会の育成段階で、ある程度育成が成功し、一人立ちできたら公民館は手を引くべきである。

公民館は会を育てあげる援助の役である。若い人にも参加してもらい、若干の手当も出し奉仕もしてもらって行く必要がある。

静岡 各グループ、サークルそれぞれにアフターケアするだけの職員配置がないので場の提供とか、講師の紹介等としている。また、このグループ等の行事も公民館行事に加えさせてもらっている。

司会 講座等開催に人が集まるよう努力した例、また、学習講座からグループ化した例などないでしょうか。

新潟 中央公民館ではいろいろ講座を設けているが、参加も多く成功しているようだ。

三条には33団体もあるが園芸、生花、音楽等多彩な趣味的、同好会的な団体が多いが、社会教育団体として種目を問わず登録してもらっている。

このように文化的団体であれば市街地でも広め育成することができる。

ま と め

1. 公民館と社会教育関係団体とのかわりについて

(1)施設を提供すると同時に団体の自主性を尊重しながら、要請に応じて指導助言にあたるのが望ましい。

(2)登録団体としての優遇措置を講じている。

例えば、公民館使用料を8割減額するなど。

(3)公民館の開館時間によって異なるが、8時45分まで等と早いところでは利用者の不満の声もある。

2. 趣味グループ、サークルの育成について従来の青年団、婦人会等地域に基づいた団体より、最近では自分の趣味、同好的な活動に強い希望があることから、これらの趣味同好グループ、サークルを援助、育成し、地域と結びつけながらお互いに連絡調整の場を作るなど、地域性に富んだ文化団体に育てあげる必要がある。

また、公民館の主催する学習講座の受講生を基にグループ、サークル化し育てあげることも一方策である。

記録 粟島浦村公民館 神丸 敦子
神林村公民館 鈴木政四郎

(前ページから続く)

第15分科会「視聴覚機材・広報媒体を活用した効果的な事業・活動について研究する」

司会者 堀之内町公民館長 佐藤 和

助言者 下越教育事務所社会教育課長 永瀬 佐吉

基調発表 長岡市日越公民館主事 佐藤 善司

1. 基調発表

(1)長岡市日越公民館報発行の経緯と現状。(発表内容については、資料参照)広報を担当してこの道一筋——日越公民館勤務15年。

地域に即したもので、しかも住民の全員参加が長続きしている秘訣。

(2)発表者とのQ&A

Q:ガリ版刷りに対する反響は?

A:心、やわらかみがあり、評判はよい。館報も読む→見る館報に変わる時期ではなからうか。

文章ばかりでなく、イラスト等でも参加(投稿)する館報づくりをしている。

Q:地区内全戸に配布しているのか、そしてその方法は?

A:全戸に配布している。地区内各町内会長にその任を依頼している。

Q:経費については?

A:活字印刷よりは割高になる。市の予算の他に記地元農協から発行の為の補助金を受けている。(農協でも独自の独自紙を発行しているが。)

現況—1,600部……23,000円

Q:印刷はどこで?

A:ガリ切りは準専門家を依頼している。現在はその5代目。

Q:魅力ある館報づくりをする為に、マンネリ化をどのようにくい止めているか?

A:編集の主題を、毎号きちっととらえる。既発行分を時間をかけて読み返すことも大切。2番、3番煎じのものもあってもよいのではないか。

Q:分館の勤務は? 他の分館の状況は?

A:行政職と兼務をしている——3館
その他は嘱託。郷土の見直し、ふれ合いを主眼に。

Q:兼務の仕事内容は?

A:地域の諸団体、行政各委員等の連絡調整がその主。

Q:編集の体制はどのように?

A:地区内16町内から選出された公民館文化部の役員がこれに当る。
どんな館報でも、発行することにより、いつかは良い記録として残る。

Q:発行を継続する為の当面のネックは何か?

A:名立町館報一年3回—1回80,000円
広報一月1回—16ページ
館報独自の予算がつきにくい。
館報、広報の内容が類似している。

Q:原稿の集まり具合はどうか?

A:常連投稿者はあまり使わない。16町内に分けると順調に集まる。公民館活動に参加する為の手段として館報を利用する。

Q:館報の本来の使命である、活動・状況等の掲載は?

A:町内のあらゆる問題に関連してとらえる。

2. 公民館報を発行するための理念と障害について。

[助言者]

(1)地域の味がにじみ出るものでなければならない。
地域の設定(とらえ方)により、その内容の取り上げ方(とらえ方)も、ちがってこなければならない。

(2)広報する前に先ず地域の課題をとらえなければならない。

地域の見直し点として——伝統・文化・風俗・習慣(生活のしかた)——それらの良所・改善点をみつけて。

(3)公民館自体、活動の助成だけでなく、地域教育の場として可っていく必要がある。

- ・地域の意識を高揚する。
- ・考え方を盛り込む。
- ・声を吹き上げる。
- ・地域(郷土)活動、地域団体の紹介(活動の状況)等を盛り込む。(動きの紹介)

(4)広報——お知らせ的

館報——流す——吸収——流す
教育性・交流性の両方をもり込む。
白書等(地域の盛り上げの資料となるもの)を取り上げる。

司会者 新潟県外の館報発行の実状は?

前橋市 広報紙面を利用——月1回・12ページ地区館では発行しているところもある。

川越市 市発行の広報を利用。

12地区館で独自の館報はない。

16^市・VTRは地区館全部に。

3. 視聴覚機材の効果的利用・全体のまとめ

[助言者]

◎館報を発行する場合。

(1)結果的に良いものだけを求めず、発行するまでの過程を大切にしたい。

(2)読者の層(年代)を考えた編集をしたい。

全層にわたるもの。

層別に組む特集記事。

・青少年向けのものも考える必要が。

内容・装丁等を若者指向で。逆に、視点を変えてみても。

(3)発行の方法

多ページで——少回で 時期・タイミング

少ページ——多回で

発行の回数・発行量を考慮。

(4)保管してもらう方法——ファイル配布。

(5)見出しのくふう。

◎視聴覚機器の利用。

(1)広報媒体として——マスコミの利用。

視聴
選択} の能力を高める必要。

(2)TV放送の利用。

放送学習 } 等の学習利用。
放送サロン }

・視聴覚機材の効果的利用を、それぞれの実状・状況等に合わせ、くふうし、補助媒体として生かしていかなければならない。

記録 羽茂町 藤井 史男

〃 佐和田町公民館 佐々木 均

十日町市中条地区公民館



(話し合いも和気あいあいと)

実践記録シリーズ

60

見る聞く話す学習

積み重ねる家庭教育講座

はじめに
十日町市街の北側
に隣接する中条地区
は人口二万世帯数三、計四館です。各館とも地域や

施設の特性を活かした独自の活動に、一多様な思春期の心を理解しを進めています。具体的な活動が「家庭のあり方を考えよう」といういくつか挙げてみると、地区民衆の体育祭、文化祭をはじめとする一般行事、青年の村、食生活教育、焼物教室、おぼあちゃんのお遊園地など年間継続参加を原則とする学校・講座、そして出発の各種講演会があります。

今年度は対象を中学生を持つ親に絞り、「大人でもない子どもでもない、最も不安定な世代である中学生の考え方、行動を見つめる事から、私たちは彼らにどう接したらいいのか、家庭はどうか、接し方、考え方を考えよう」というテーマで昨年と同じ七回シリーズを企画しています。そしてこの家庭教育講座ももっとも地域に浸透し、非行防止や明るい家庭作りの一助になれば幸いです。

はじめて、二千五百の、十日町ではかなり大きな地区です。地区内に設置されている公民館は、地区館一、分館は人口、二万世帯数三、計四館です。各館とも地域や施設の特性を活かした独自の活動に、一多様な思春期の心を理解しを進めています。具体的な活動が「家庭のあり方を考えよう」といういくつか挙げてみると、地区民衆の体育祭、文化祭をはじめとする一般行事、青年の村、食生活教育、焼物教室、おぼあちゃんのお遊園地など年間継続参加を原則とする学校・講座、そして出発の各種講演会があります。

さて、今回は地区館が主催している学級・講座の中から、その重要性が叫ばれている家庭教育のあり方について考える、「家庭教育講座」を紹介してみたいと思います。家庭教育講座は昨年からの地区館で始めた事業で、参加者も多く学習活動という点でもかなり進んだ講座です。多少講義の内容が難しくしても熱心に耳を傾け、話し合いには積極的に参加する。学習が進めやすいのは参加者一人一人がそのひとりに家庭教育の大切さを感じているからなのでしょう。昨年は小中学生を持つ親を対象

「実践記録」のあれこれ、いろいろと反響を呼んでいます。あなたもぜひ書いてみてください。

テーマと講師
(1)子どもの意欲を伸ばすためには
講師 中条中学校若月壽郎
(2)親の生き方と子供の育て方
講師 ニロニ百石の里 花穂正夫
(3)家庭での教育ポイントとテーマ
講師 柏崎高校小国分校 松田鉄天
(4)家庭でしかできない教育
講師 長岡市役所 大島 浩

表紙絵募集
絵回教養での傑作、利用クループの中で絵をかくする人の作品など、なるべく色紙やA4位置で書かれたものを期待しています。説明又は四〇〇字程度でお願ひします。 編集部

公民館の管理と運営に関する一〇〇の質問に答える、関係者待望の書『公民館運営一問一答集』
佐々木 実 著
★A5判・二八八頁
定価 一、七〇〇円(八千二〇〇円)
「こんなとき……」「こんな場合は……」と、公民館関係者が直面する公民館の管理・運営上の疑問に、一問一答の形でわかりやすく答えています。
公民館関係者の具体的な、ナマの質問一〇〇に、社会教育の行政や実務に経験の深い著者が、社会教育の今日的視点に立つて平易に回答しています。
地域住民の教育問題、生活問題に結びついた、地域社会にとって必要不可欠な公民館活動をめざす、公民館関係者のための手引書です。
目次
第一章 公民館への期待
第二章 公民館の行う事業
第三章 公民館の行うリーダー養成
第四章 公民館のコミュニケーションへの
第五章 公民館施設管理運営
第六章 公民館職員の仕事
第七章 公民館の運営協議会の役割
第八章 公民館と関連機関との関係
申し込み先
〒010 新潟県川崎町2-1、東林業会館内
新潟県公民館連合会
電話 〇二五二一四一〇七三

あの頃のこと

公民館の願望の様々 (3)

横山 旭三郎

公民館は施設が機能か
 公民館は施設である。そのためには公民館という建物を持ち、これを住民の話し合いや研修の場として提供するに整備することが必要であるという論と、公民館は機能に力を入れるべきである。住民自身が研修しやすいように手助けする教育的な動きが重要であり、建物はその一つの条件整備である。したがって民家でも、屋外でも時に無じて決められるものであり、その研修や話し合いが、住民の二、三により自主的に行われることが大切である。公民館は如何にこれを手助けするかが任務である等々、深刻に話し合ったものである。学校は施設が機能か等は誰れもわからない。こんなことから考へて、建物は必要だがそのとき々の市町村財政では建てられなかつた苦慮から発した議論かも知れない。施設もあの機能も十分発達できれば最上ではあるけれども、今は少くも我々としてはしつとる。パソコン、自動車台がなかなか揃えられな。旧村毎に責任者が配属できる。市民の末端までも集めて話し合いを

「理想的な姿」として両者は並して貰うには、建物が機動力のある自動車が必要である。そうすることほしい町村財政では難題となる。国の必償制にすれば補助と枠組がきまり、活動が活発になるのだが、集会所に繰り返され多くの公民館人の願いが実を結んだ。社会教育についての指導助言を手とした社会教育主事についてはある程度実現したが、公民館主事

事の必償と専門職取扱いはそのままになった。しかし普的町上を自覚し、県公連ではいちはやく長期講習をして公民館主事を養成することにした。

移動公民館を設置
 職員が少ない。これでは合併の端々まで活動の輪は広がらな。じつとして、集会所を待って、いわゆる単位を限度にして、一日三、四回巡回することにした。

に、巡回文庫と公民館を兼ねた移動公民館の車購入に成功した。農機体操等も考え、田の中煙の中で紙や筆を持ちながら習熟を促す体験等も取り入れて見た。しかしこれをするには毎日最

やく全部紹介することができま
 所定の枚数をオーバーした記事もあって、一部要約させてきた。どうかと思ふものもあるが、内容がしっかりして手を入れるのが困難なほど、よき記録されたものもありました。記録者の皆さんに敬意を表します。

小面に寄す

浅間 勝衛

とある邸裏の
 銀杏の葉のふりしく氷雨の小道
 うち捨てられた小面一つ
 縁欠けてかすかに泥には染つて
 いても
 なお残るふくよかな頰と愁いふ
 くまなきし
 おお 泥にまみれた小面よ
 おまえの思出にのこる
 かすかすの舞い
 かすかすの唄来

おまえの頬がなお艶やかなのは
 正面にまだ鳴りやまぬ拍手の
 ほのかな名残りか
 またおまえの無垢な微笑みは
 ついに女の情念に生きぬいた者
 の悔悟をしらぬ勝利の余韻か
 ぼくらは
 おまえのまろやかな頰いから
 衣裳のしたに美しいトルソを
 夢見るのだが
 おまえが仕えた男たちはおまえ
 の肉体への嫉妬のあまり
 おまえの素肌を錦の装束でおお
 い隠したのかもしれない
 それからおまえの額の靈妙なま

くらみのあたり
 ぼくの亡母の若き日に似よと思
 えばかすかにも似て
 胸せまり想いこみあげ
 そこいらを立ち去りかねたぼく
 はふいとおまえの表情のうごき
 亡母の葬送の日のおい野辺に
 焼けおちる樞と天を焦した
 炎の渦を見た

エアポケット
 (元糸魚川市公民館長・越谷市在住)

虚空四千メートルを
 垂直に落下する無重力状態の
 キャピンのなか
 一瞬 暇に
 赤茶けた逆さ富士を見たと思つた
 が
 あれは 地獄の富士 であつたか